

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	病態制御科学領域 内分泌代謝内科学分野 氏名 松村 功貴
指導教授氏名	大門 眞
論文審査担当者	主 査 奥村 謙 副 査 今泉 忠淳 副 査 萱場 広之
<p>(論文題目) Isolated low HDL-Cholesterol in Japanese patients with type 2 diabetes (日本人 2 型糖尿病患者における単独型および複合型低 HDL-コレステロール血症の冠動脈疾患への関与について)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>糖尿病患者における脂質異常の特徴として HDL コレステロール (以下 HDL-C) 低値と中性脂肪 (以下 TG) 高値がある。本研究の目的は、2 型糖尿病患者における HDL-C 単独低値群と HDL-C 以外の脂質異常を合併する複合型低値群の有病率を明らかにするとともに、冠動脈疾患リスクへの影響を明らかにすることである。</p> <p>対象は 2007 年から 2013 年に弘前大学附属病院内分泌・糖尿病代謝・感染症内科に教育入院した 2 型糖尿病患者 398 名 (男性 238 名、女性 160 名) で、1 型糖尿病、内分泌疾患、その他重篤な合併症を有する患者は除外した。HDL-C の cut-off 値を男女とも 40 mg/dL、TG の cut-off 値を 150 mg/dL とし、それぞれの高低に従って 4 群に分けた。HDL-C が 40 mg/dL 未満の患者をさらに単独型と複合型低値群の 2 群に分けた。398 名のうち、冠動脈疾患の精査・治療を受けた男性 173 名を対象とし、冠動脈疾患リスクとしての低 HDL-C の関与について検討した。</p> <p>結果は以下の通りであった。HDL-C 低値の患者は 33.7% に認め、2 型糖尿病の約 1/3 に相当した。HDL-C 単独低値群は 12.6%、複合型 HDL-C 低値群は 21.1% であった。冠動脈疾患群 173 名の HDL-C 値は冠動脈疾患リスクとの間に有意な負の相関関係を示し (オッズ比 0.86; 95% CI, 0.5 - 0.9)、TG や他の危険因子とは独立していた。HDL-C 単独低値群と複合型低値群の間では、34.1% 対 32.4% と有意差は認められなかった。</p> <p>以上より、低 HDL-C 血症は 2 型糖尿病に見られる脂質異常症の約 1/3 を占め、冠動脈疾患リスクは単独型低値群と複合型低値群で差がなかったことより、低 HDL-C 血症は他の危険因子とは独立した冠動脈疾患発症の危険因子であること確認された。糖尿病における単独型低 HDL-C 血症に対するアプローチは大血管障害に対する新たな治療戦略に結びつく可能性があり、臨床的意義が認められ、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Diabetology International